

踏み跡 <My Mountains>

南アルプスの主峰北岳を右回りにぐるりと回って流れてくる野呂川は、やがて早川と名を変えて南へ向かう。早川はさらに雨畑川などを合わせて身延山の東側で富士川に合流する。

この雨畑川との合流地点の南に位置し、春木川を挟んで身延山と向かい合う大きな山が七面山である。

海拔 1982.4m の七面山を基点とした稜線は八紘嶺 (1917.9m) で二つの山脈に分かれて南アルプス前衛の主要な山脈を構成する。東から、富士川・安倍川・大井川の三つの流れの間を走る稜線はまさに南アルプスを守る前衛のような構えで立ち並ぶ。

七面山の西側を流れる雨畑川の谷間は古くからある硯の産地である。私の机の中に父から譲り受けた雨畑硯があり、これを見るたびにこの山のことを思い出し、地図を眺めては「いつかは・・・」の思いを強めてきた。

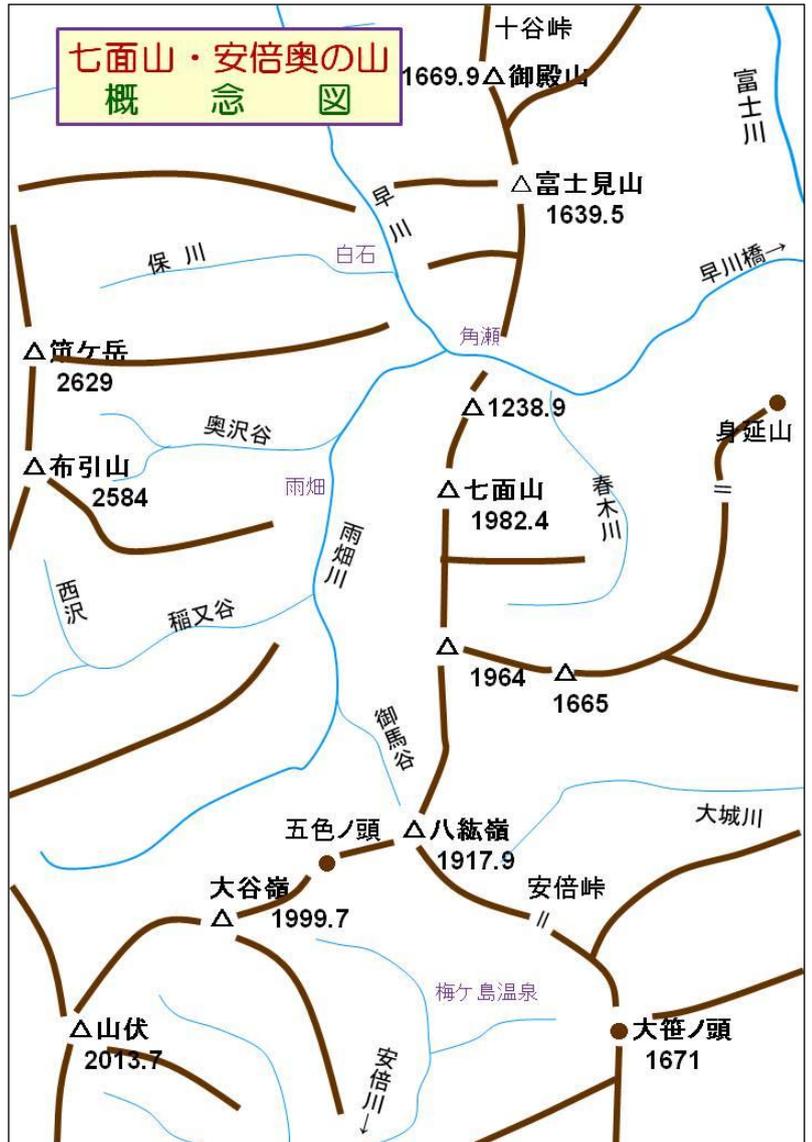
昭和60年2月25日

5時に家を出発。例によってセブンイレブンで食糧を調達して原木インターから京葉道路へ。

甲府南インターで下りると南アルプス・八ヶ岳・奥秩父すべてくっきりと見えて文句の付けようがない晴天。

角瀬 (すみせ) に 9時20分に到着。お寺

の境内にある駐車場に駐車。(ここは海拔 300m) 駐車場で服を着替えながら朝食 (サンドウィッチと牛乳)。
9時45分出発。杉林の中の急な登り、足元の雪を踏みしめてただひたすら登り続ける。高度を上げて行くにつれて徐々に富士山が顔を出し始めてくる。この方角から見る富士山は男性的で迫力がある。



雪は膝ぐらいの深さだが、きちんとラッセルされていて歩きやすい。

海拔 1200m 地点 12時25分。一汗かいたところで昼食とする。おにぎりとお茶にお菓子を少々。20分の中休止は食事の後一息ついただけで終了。12時45分出発。

雨畑への分岐点 (海拔 1500m) 13時13分。
奥の院でノートにスタンプを押して、敬慎院に 13時35分に到着。ここは海拔 1730m、敬慎院の境内は雪の中 (左写真)、頂上への道はラッセルされていないので、吹き溜まりでは膝を隠すほどの積雪になっている。ラッセルしながら頂

上を往復するには少々時刻が遅いような気がするので、今日のアタックはここまでとする。雪と富士と青空を楽しみながらおやつを立ち食いの休憩。ダイナミックな・・・と言おうか勇壮な・・・と言おうか、河口湖や三ツ峠等から見た秀麗な富士とは似ても似つかぬ逞しく、荒々しい富士が目の前のスクリーン一杯に広がっている。

踏 み 跡 <My Mountains>

富士の手前に立つ天子山塊などの富士西麓の山も雪をたっぷりつけて墨絵のような美しさだ。(左写真)



反対側の南アルプスやその前衛の山々も白く大きく、長い稜線を連ねている。

14時30分に敬慎院を辞して下山開始。下りのルートは敬慎院から真東に走る稜線を春木川に向かって海拔500mの羽衣橋まで高低差1200m余の下り。

羽衣橋16時、川の対岸に白糸の滝を眺めながら角瀬へ。角瀬16時40分。さすがに一時間半で1200mも下ると耳がガーンとなった。

二月の谷間の夕暮れ時は冷たさが襲いかかってくる。汗に濡れたシャツを着替えて手や顔を洗うとブルッと来る。しばし

土産物屋を覗いた後出発。富士川沿いの国道を遡り甲府盆地に出る頃にはもう街に灯りが灯り、夕暮れから夜に変わっていた。

以上

これで昭和36年4月に歩き始めてから200回目の登山が終わった。

100回目の登山は甲府の帯那山だった。

なぜか切れのよい記念になる登山の時には「富士がきれいに見える山」を選ぶ癖が付いてしまったようだ。